

平成30年度 第2回 廃棄物減量推進部会会議

発言要旨

1 【日時】 平成30年7月20日（金）10:00～12:00

2 【場所】 西宮市役所 本庁東館7階 701会議室

3 【出席者】 全9名（内、1名欠席）

項目	所属団体	役職名	委員名
環境計画推進 パートナーシップ 会議委員	大阪産業大学	教授	花田 真理子
	NPO 法人子ども環境活動支援協会	理事	小川 雅由
	環境衛生協議会	会長	樋口 賢一
	公募市民	—	柳生 裕之
市民代表	甲東エココミュニティ会議	会長	山崎 由美
事業者代表	にしのみや環境サポート協同組合 (株式会社ヤマサ環境エンジニアリング)	常務取締役	川越 勉
	西宮商工会議所 (株式会社山一商会)	代表取締役社長	櫻田 健太
	生活協同組合 コープこうべ	理事	上田 久美子

【事務局】 全12名

局	部	課	役職名	職員名
環境局	—	—	局長	須山 誠
	環境事業部	—	部長	田中 義弘
	環境施設部	—	部長	野田 敏彦
	環境事業部	美化企画課	課長	森川 信也
			係長	加羅 一巳
			係長	吉岡 崇
	環境施設部	美化第3課	課長	池田 信彦
			課長	小西 昇
		施設管理課	副主査	森本 雅樹
			課長	山村 康浩
			係長	高橋 能正
			技師	宮部 格

【会議支援】 3名 復建調査設計株式会社

4 【傍聴者】 0名

5 【欠席者】 1名

項目	所属団体	役職名	委員名
市役所関係	学校教育課	指導主事	宇野 繁範

6 【会議の概要】

1. 出席者紹介

出席者の確認を行った。

2. 報告事項

1) 平成30年度第1回廃棄物減量推進部会の発言要旨の確認について

①花田部会長より、資料1、平成30年度第1回廃棄物減量推進部会の発言要旨について説明が行われた。

→事前に送付し、確認をいただいております、質疑がないため承諾とする。(委員)

2) 次期基本計画素案の策定について

①事務局より、資料2の次期基本計画(暫定版)第5章～第6章に沿って説明が行われた。

・収集運搬計画で、コンテナ収集などの収集方式の見直し検討を行うとあるが、具体的な検討内容は何か。(委員)

→現在、缶、びん、燃えないものをひとくくりでコンテナ収集している。市民の皆様は分別していただいているにもかかわらず、運搬時や処理施設で降ろすときにロスが発生していることから、再資源化が進んでいない。また、高齢化が進む中でコンテナ収集が負担となっているという意見をいただいていることから、袋収集に変えたほうが良いのではないかと考えている。新しい破碎選別施設ができることから、処理方法の変更に併せて収集方式についても見直す必要があると考えている。(事務局)

→見直し検討は具体的にどこで行うのか。(委員)

→廃棄物減量推進部会において意見をいただき、行政が見直し検討を行う。(事務局)

→コンテナ収集をやめて袋収集にすると、ペットボトルのラベルやキャップの分別、びんの出し方などが悪くなる恐れはないか。(委員)

→以前、袋収集をしていたときは、異物混入が多かった。そこでコンテナ収集に変えたことで異物の混入率がかなり低くなった。しかし、高齢化の対応を考えると、コンテナ収集を継続することは難しいと考えている。(事務局)

→見直し検討はパートナーシップ会議や廃棄物減量推進部会ですることになると思う。(委員)

・ガラスびんだけを集める日を作ったほうが良いと思う。(委員)

・資源Aと資源Bの分け方で、チラシと新聞は一緒に出せないか。(委員)

→昨年の部会でも意見をいただいているので、その辺りも含めて分別の区分を見直したいと考えている。(事務局)

・新しい破碎選別施設にアルミ選別は導入するか。(委員)

→精度が良い選別機があるのでぜひ採用していただきたい。(委員)

→来年度より行う施設基本計画で検討する。(事務局)

・収集運搬方式の見直し検討を行う時期は、施設の建設に併せて見直すと考えて良いか。(委員)

- 新元号1年度より東部総合処理センターの破碎選別施設の施設計画・調査を行うので、それと併せて分別収集の方法、収集方式の形態の見直しを検討したいと考えている。(事務局)
- ・分別区分の見直し検討を行う話が出ているにもかかわらず、「引き続き現状の7種12分類を基本とする」という表現には違和感がある。(委員)
→変更する。(事務局)
 - ・芦屋市と広域処理を検討していることから、その他プラやペットボトル、缶、びんの分別方法はある程度整合を図る必要があると思う。(委員)
→芦屋市と広域処理の「検討を進めています」とあるが、「検討を進めていきます」という表現のほうが良い。(委員)
→変更する。(事務局)
 - ・その他プラについて、どこがお金を出して、どこが処理しているのか、仕組みを知らしめる啓発を行ったほうが分別の協力度は得られるのではないかと。税金を使っているのではなく、容器包装リサイクル協会がお金を出して処理していることを説明すべきである。(委員)
→その他プラの処理業者は洗浄はしているか。(委員)
→洗浄はしていない。(事務局)
→その他プラは、ペレットにして洗浄しているから汚れたものでも出してよいという市町村がある。洗浄を導入することで、その他プラの回収率は上がると思う。(委員)
→マテリアルリサイクルではなくサーマルリサイクルにするということで、東京都では7~8年前からその他プラを全て燃やしている。都民からクレームが出たが、有害ガスが出ないこと、熱で発電し売電していることを1年半くらいかけて説明した。(委員)
 - ・第5章の収集運搬計画に、前章を実現するための収集運搬の体制について検討する等といった言葉がないため繋がりが分かりにくい。(委員)
→検討する。(事務局)

②事務局より、資料2の次期基本計画(暫定版)第7章に沿って説明が行われた。

- ・48ページのフロー図について、最終的には公共用水域に処理水放流であるが、海域に放流することが書かれていない。(委員)
→河川及び海域への放流に修正する。(事務局)

③事務局より、資料2の次期基本計画(暫定版)第8章に沿って説明が行われた。

- ・PDCAサイクルのCheckは環境審議会が行うことになることと、審議会の提案を受けてパートナーシップ会議が見直すことなど役割について触れておいたほうが良い。(委員)
→PDCAの図を見ると、PDCAがうまく回っているという雰囲気を感じられない。サイクルで回るのが本来のPDCAであるので、表現を変えてもらいたい。(委員)
→修正する。(事務局)

④事務局より、資料2の次期基本計画（暫定版）第1章～第4章の修正箇所について説明が行われた。

- ・18ページ及び19ページの下が空白になっているが、20ページ21ページになると内容が凝縮されている。少し違和感がある。（委員）
→20ページ及び21ページのごみ組成は、見開き構成にするようにと今年の部会で意見をいただいた。（事務局）
- ・5ページの西宮市の概要で、人口だけでなく世帯数も折れ線グラフで入れてもらいたい。（委員）
→世帯数を追加する。（事務局）
- ・22ページのコラムの「ごみの経年変化」を「ごみ組成の経年変化」とすること。（委員）
- ・地域単位で活動されている人たちの言葉が出てこない。（委員）
- ・3Rを2R+リサイクルに変えていくとき、相当大きな方針転換を行わないと伝わらないと感じている。34ページの行政の役割に環境教育・環境学習の実施とあるが、もう少し教員の研修、教材の見直しなど具体的なことを書いてもらいたい。（委員）
- ・40ページのコラムで、黒い袋を使っているところは「ほとんどない」ことを書いたほうが良いと思う。（委員）
- ・32ページの事業系ごみ排出量をトンパーデイ（t/日）表記にすることは、事業者が自分たちのごみを減らしていくという意識を持ってもらうためには良いと思う。（委員）
- ・リサイクル率の考え方で、果たしてリサイクル率を上げることがごみの減量につながるのかなと考えていかなければならないが、これについては中間見直しで見直していくこととする。（委員）
- ・フードバンクという言葉で良いのか。（委員）
→フードドライブに修正する。（事務局）

3. 確認事項

1) 今後のスケジュールについて

事務局より、第3回廃棄物減量推進部会の予定について説明された。

- ・第3回廃棄物減量推進部会は、8月16日（木）10時からを予定している。本日の部会及び第3回部会をもって、次期基本計画を完成形に近い素案にしたいと考えている。（事務局）

以上